

赤十字国際ニュース

2026 年 第 46 号 2026 年 8 月 7 日

(通巻 第 1833 号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-6674-1004

E-mail: kokusai@jrc.or.jp <https://www.jrc.or.jp/>

バングラデシュ豪雨災害：被災地を支える現地の力

バングラデシュでは、2026 年 7 月上旬から続く記録的な豪雨により、南東部および北東部を中心に広い範囲で洪水や土砂崩れが発生しました。これまでに 50 人以上が死亡し、約 3 万 8,500 人が一時避難を余儀なくされたほか、26 万 7,000 世帯以上が洪水によって孤立するなど、被災者は 110 万人以上に上ります（7 月 18 日時点）。

多くの家屋や給水設備が損壊し、道路や橋などのインフラにも被害が及びました。さらに、農地や養殖施設、家畜も大きな被害を受け、人びとの暮らしや生計に深刻な影響を与えています。

ミャンマーから逃れた人びとが暮らすバングラデシュ南部のコックスバザールにある避難民キャンプやその周辺の受け入れ地域でも被害が広がっています。急斜面が多い丘陵地にある避難民キャンプでは、豪雨による洪水や土砂災害の危険性が高いほか、汚染された水源や給水・衛生施設の損壊による感染症のリスクも懸念されています。被災された人びとの生活再建に向けて、継続的な支援が必要とされています。



降り続く大雨により河川が氾濫し、広範囲で洪水被害が発生した©IFRC/BDRCS

■最前線で活動するバングラデシュ赤新月社

バングラデシュ赤新月社は、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）や各国赤十字社、赤新月社と連携し、避難の呼びかけや注意喚起といった早期警戒活動から、発災後の救助・救援活動に至るまで迅速に対応しています。

全国で 3,500 人を超えるボランティアやサイクロン準備プログラムのメンバーが動員され、これまでに 2 万 2,000 人以上に対する救助・避難支援を行い、2 万 3,000 人以上に食料を配付、3 万 4,750 リットル以上の安全な水を供給しました。また、巡回診療を通じて 1,558 人に医療サービスを提供したほか、579 人には心理社会的支援（こころのケア）を実施しました（7 月 21 日時点）。



洪水で孤立した人びとに救援物資を届ける赤新月
ユースボランティア©BDRCS



土砂崩れで寸断された道路の復旧作業にあたるバ
ングラデシュ赤新月社のボランティア©BDRCS

■避難民キャンプでも続く救援活動

日本赤十字社が 2017 年から継続して支援している、コックスバザールにある避難民
キャンプ（[バングラデシュ南部避難民支援事業](#)）でも、救援活動が続いています。

キャンプでは、土砂崩れや浸水によって、シェルターや道路、給水・衛生施設が損壊
しました。バングラデシュ赤新月社は世帯訪問を通じて被害状況やニーズを確認しなが
ら、緊急シェルター資材の配付や応急修理を進めています。

日本赤十字社が支援する保健・医療分野では、医療施設への直接的な被害は報告され
ておらず、母子保健を含む医療サービスを継続しています。また、バングラデシュ赤新
月社のボランティアは啓発活動や世帯訪問、心理社会的支援（こころのケア）を通じて、
5,938 人を支援したほか、高齢者や障がいのある人など、特に支援が必要な方々に対す
る情報提供や必要なサービスにつなぐ活動も行っています（7月12日時点）。



コックスバザールの避難民キャンプで、避難支援や世帯訪問による状況確認を行う
バングラデシュ赤新月社のボランティア©BDRCS

コックスバザール避難民キャンプでの救援活動の様子

- ・ 動画：<https://youtu.be/avKYjvNsED8>
（2分40秒）



■迅速な救援活動を支える現地の力

日本赤十字社は、IFRCとともに実施している「[アジア・大洋州 給水・衛生災害対応キット整備事業](#)」を通じて、これまで10年間にわたって、バングラデシュ赤新月社の災害対応能力強化を支援してきました。具体的には、給水・衛生分野における人材育成や資機材の整備を行うことで、災害時の対応力の強化に貢献しています。

今回の災害対応では、この事業で研修を受けたボランティアやスタッフが被災地で活動しているほか、事業を通じて整備された浄水設備も活用されています。こうした長年の支援による能力強化の積み重ねが、現地の人びとによる迅速かつ効果的な救援活動を支えています。



安全な水の確保のため、浸水により汚染された井戸の消毒作業を実施©BDRCS



移動式水処理プラントを活用し、配付用飲料水の準備を進める©BDRCS

■被災した人びとに寄り添い続けるために

豪雨のピークは過ぎつつありますが、一部地域では依然として浸水や土砂災害の危険が残っています。被災地では、住居の再建や生計手段の回復、安全な水と衛生環境の再整備など多くの課題が残されており、今後も継続的な支援が必要です。

今回の洪水への迅速な対応は、地域に根ざしたバングラデシュ赤新月社の活動に加え、平時から積み重ねられてきた災害対応能力の強化や人材育成によって支えられています。日本赤十字社はこうした現地の力を支えるため、今後も国際赤十字の一員として、バングラデシュ赤新月社とともに被災された人びとに寄り添い続けます。



メールマガジン『赤十字国際ニュース』

赤十字が世界中で行っている人道支援活動の最前線と、それを取りまく最新ニュースをメールでお届けします。

メールマガジンへの登録は、左の画像をクリックしていただくか、二次元コードを読み込んでいただいた先の登録フォームからお願いいたします。

